

9月定例会を振り返って

会派の意見

市民クラブ

チヤレンジ塾で進路保険を

化計画について、市長は、民間園舎が多く課題もあるが、各園舎の耐震化を急がなくてはならない。国の動向を見ながら取り組んでいくと答弁した。

竹内千賀子議員は、就労対策の特命随意契約の廃止や高知チヤレンジ塾、南海地震対策、原発等について質問した。

チヤレンジ塾については貧困の連鎖を断ち切るためにも大いに期待するとしたのに対し、市長は、学力保障をすることで進路保障につなげることができる本市独特的課題を克服するための大きな取り組みであるとの考

目標管理制度のさらなる充実を
求めた。そのほか、旧高知市の
中山間地域の整備を求め、「土
佐山、鏡地区と同様に進める」
との答弁を引き出した。**上田貢**
太郎議員は宮城県の被災地救援
ボランティア活動の経験を踏ま
え質問。職員の被災地への派遣
状況を問い合わせ、自主防災組織の人
員・予算の拡大、長期浸水対策
や高台移転など都市計画の見直
し、合併特例債の期限延長につ
いて考えをただした。**福島明**議
員は、台湾への観光プロモーシ
ョンの成果を問い合わせ、電力事業

県に対する積極的な働き掛け、種崎地域への避難タワーの追加設置、学校など避難施設屋上へのヘリサインの表示整備などを指摘。これらハード面整備への取り組みについて執行部から前向きな答弁を引き出した。

和田勝美議員▼ TPP問題、消防署所の再編整備問題、教育行政について執行部の方針をただした。特に本市北部の人口増に対応するため「北消防署」の早期整備を強く求めた。市立中学校生徒の学力・学習状況調査の結果を公開すべきとの指摘に対して、今回から実施すると

の教育長答弁を引き出した。

組みを要望しました。
西森美和議員は、就学前のアレルギー疾患対策について、医師の診断に基づく給食のアレルゲン除去や、重篤なショック症状を想定した訓練の実施等を求め、今年度中に「食物アレルギー対応の手引」を作成し、研修を充実するとの答弁を得ました。

日本共産党

**命と暮らしを守り、地元業者の仕事をつくる市政を一
下本ふみお、下元ひろし、細木良、はた愛の各議員が質問を行いました。岡崎市政8年間を振り返り、53億円を超える（国**

みどりの会

近森議員が議会に入り5ヶ月、経営者の視点で市政をチエック。48項目の指摘のうち30項目は予算化と改善。市民陳情や不満を次々に解決しています。専門は商工観光、医療福祉、教育、環境、防災、農水です。市民の皆さまの陳情をお待ちしています。

対。補正予算は、学校給食調理業務等の民間委託拡大を指摘し、修正案を提出しました。

自然エネルギー供給地としての
中山間振興を提案しました。

制度の改善を求めるまでもなく、保育園の防災対策を進めるための予算枠設置を求め、放課後児童クラブの待機児童については

経済・雇用対策については、住宅リフオーム助成制度での仕事づくり、地元業者や労働者への公正な賃金確保、入札・契約

また、国保の窓口負担の軽減を
就学援助世帯へ拡大するよう求
め、「学校・警察連絡制度」の
導入には反対しました。

保分を除く) 市民負担による財